

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 阪南中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・阪南中学校では、3 年生 285 名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立阪南中学校

生徒数

285

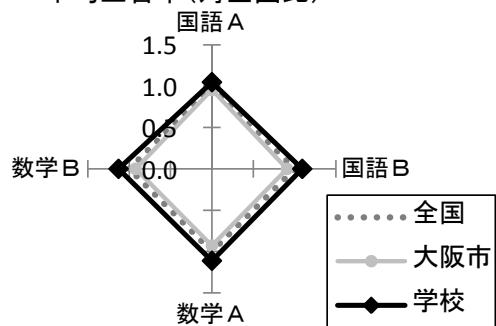
平均正答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	83.2	55.7	74.9	67.5
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

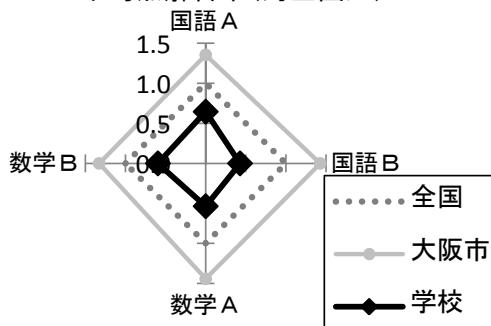
平均無解答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.0	1.5	2.3	6.5
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

- 平均正答率は、国語において全国平均よりA・B問題ともに、3.8~4.7ポイント上回っている。数学においてA・B問題ともに、全国平均より7.5~7.7ポイント上回っている。数学が国語に比べると全国平均との差が大きい。
- 平均無回答率は、国語において1.1~2.0ポイント、数学において2.0~4.4ポイント全国平均より低くなっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

《取組と成果》

- 学校生活において、生徒が集団でのルールやマナーを守り、学校・学年・学級の規律が保たれることを目標に、日々の活動に取組んでいる。それにより、一定落ち着いた状況で学習に取り組むことができている。
- 各教科において、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組めるような授業づくりを目指し、指導法の改善や教材づくりに努めている。
- 教員相互の授業参観週間を設け、個々の授業力の向上に努める。

《取り組むべき課題》

- 生徒の興味・関心が持てるような、ICT機器を活用した授業の実施と研究。
- 個に応じた指導の充実を図るとともに、教員の授業力の向上を目指す。
- 生徒が自分で考え、話し、伝えることができるよう、言語活動の充実を図る。

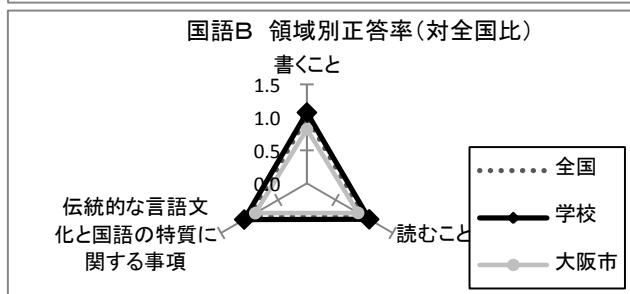
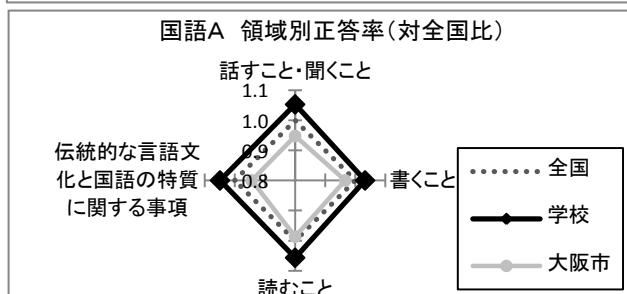
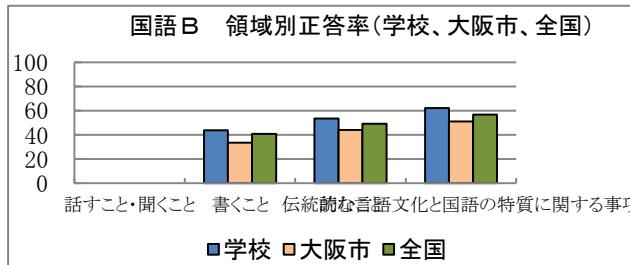
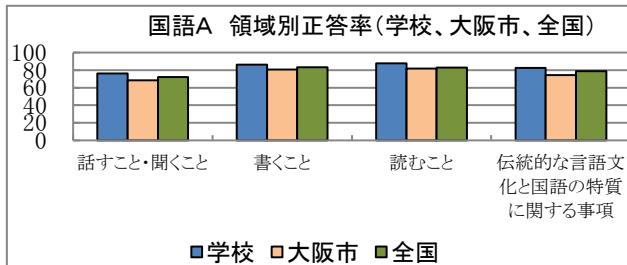
【国語】

結果の概要

平均正答率について、A問題は3.8ポイント、B問題は4.7ポイント全国平均を上回っている。4領域別では、A・B問題で2.7～5.5ポイント全国平均を上回っている。A問題では「読むこと」、B問題では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が全国との差が大きく、「書くこと」の領域がA・B問題とも全国との差が小さい。全体的に無回答率は低い。

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	76.1	68.5 72.3
	書くこと	6	86.1	80.6 83.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	読むこと	5	87.6	81.8 82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	82.6	74.3 78.7

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—
	書くこと	3	44.0	33.6 41.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	読むこと	8	53.6	44.1 49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	62.3	51.3 56.8

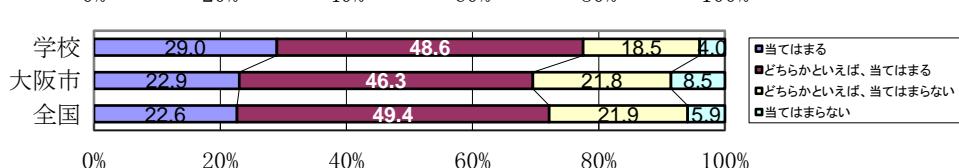


国語に関する「生徒質問紙」

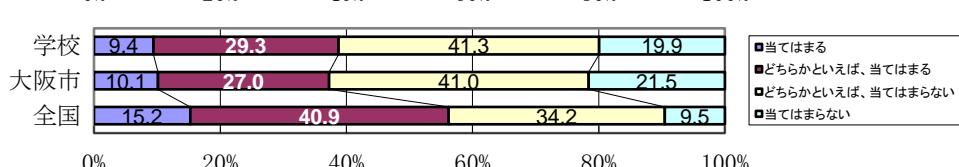
50
国語の勉強は好きですか



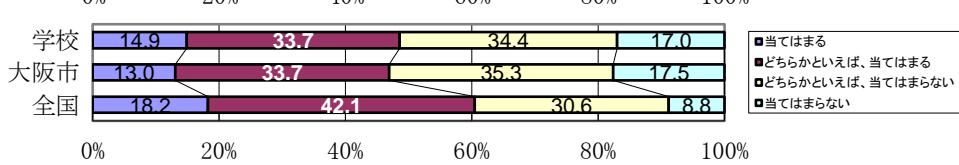
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

生徒の興味や関心を引く指導の工夫・改善に努めている。また、教材を使って何を教えていくか目的を明確にし、授業を展開するように日々授業の改善に取り組んでいる。その成果が生徒質問紙の「好き」「分かる」からもうかがえる。自分の考えを話したり、書いたりに課題があり、言語活動を増やしていくことが必要である。

今後の取組

4領域について、個々の力を少しでも引き出していけるように、習熟度別少人数授業や、TT授業において指導法の工夫と改善を図る。また、自分の意見や考えを、話し、書く力を育成するための、多様な言語活動を取り入れる。教員の研究授業や研究協議などの機会を増やし、授業力向上を図る。

【数学】

結果の概要

平均正答率について、A問題は7.5ポイント、B問題は7.7ポイント全国平均を上回っている。4つの領域別では、A問題は6.3～8.7ポイント、B問題は6.8～9.0ポイント全国平均を上回り、A問題、B問題ともに「資料の活用」の領域がよくできている。全体的に無解答率は低い。

生徒質問紙の結果からは、学習に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。

A 問 題

平均正答率(%)

学校 大阪市 全国

学習指導要領の 領域等	数と式	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
	数と式	12	85.7	72.8
	図形	12	72.7	61.2
	関数	8	65.5	53.2
	資料の活用	4	67.8	54.0

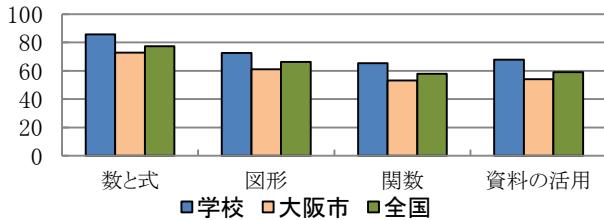
B 問 題

平均正答率(%)

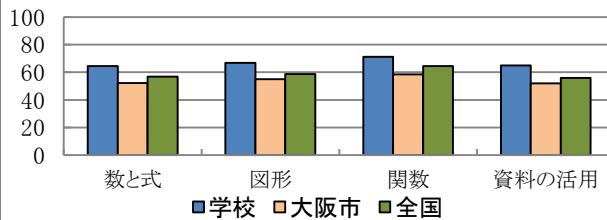
学校 大阪市 全国

学習指導要領の 領域等	数と式	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
	数と式	3	64.5	52.1
	図形	5	66.7	55.0
	関数	5	71.2	58.5
	資料の活用	2	64.9	51.9

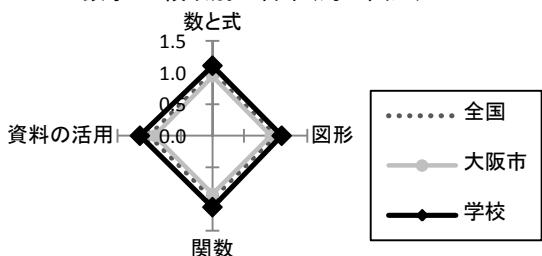
数学A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



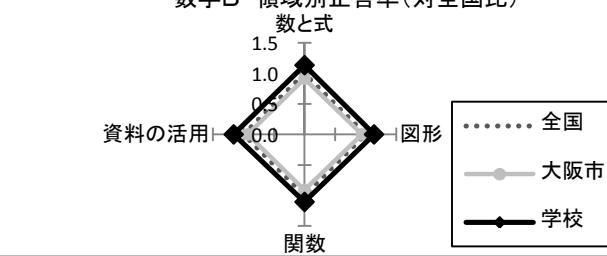
数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学A 領域別正答率(対全国比)



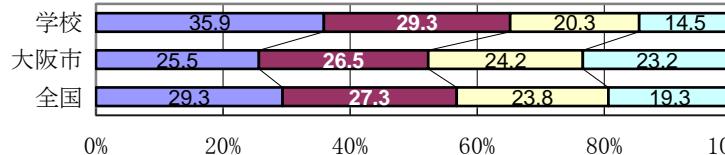
数学B 領域別正答率(対全国比)



数学に関する「生徒質問紙」

62

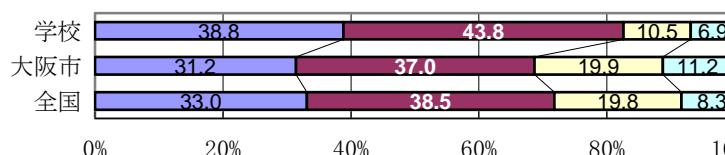
数学の勉強は好きですか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

64

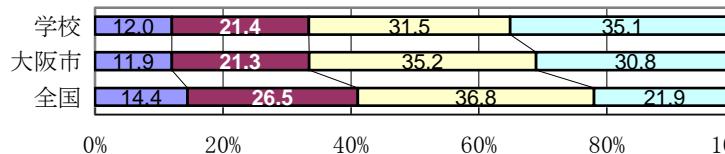
数学の授業の内容はよく分かりますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

67

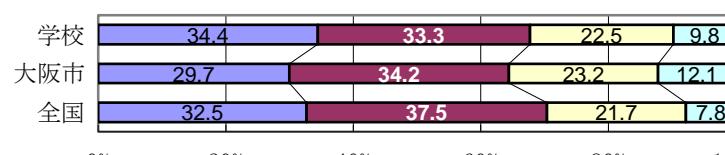
数学の授業で学習したこと
を普段の生活の中で活用で
きないか考えますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

70

数学の授業で公式やきまり
を習うとき、その根拠を理解
するようにしていますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

成果と課題

毎授業で行っている計算・方程式を中心とした小テストや、プリントなどでの反復練習により、主として「知識」に関する基本的な問題ではどの分野において成果をあげている。

一方で、主として「活用」に関する問題は弱い部分があり、数学的な見方や考え方を伸ばすことに課題がある。

今後の取組

習熟度別少人数授業やTTなど、個に応じた指導の充実を図り、わかる授業づくりに努める。

基本的な計算・方程式の問題については反復練習を行い、基礎学力の定着を図る。また、「知識」を活用できる力を高める教材の工夫・精選を行うとともに、教員間の相互参観や意見交換などの機会を増やし、授業力の向上を図る。

学びの充実に向けて(1)

結果の概要

○「授業で自分の考えを発表する機会が与えられていた」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は78.3%で、ほぼ全国平均並みであった。

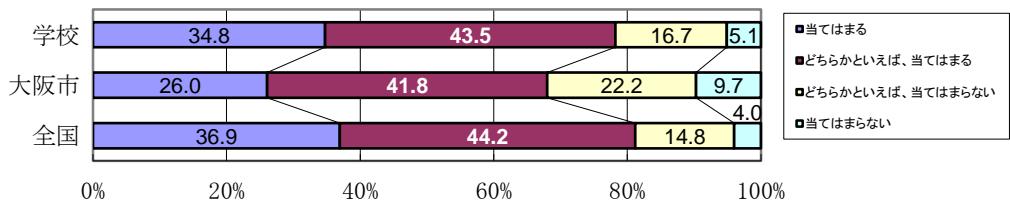
○「読書は好きですか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は58%で、大阪市の平均並みであった。全国平均からは、11.4ポイント下回っている。

○「生徒間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりできる」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は49%で、全国平均から12.9ポイント下回っている。

質問番号	質問事項
------	------

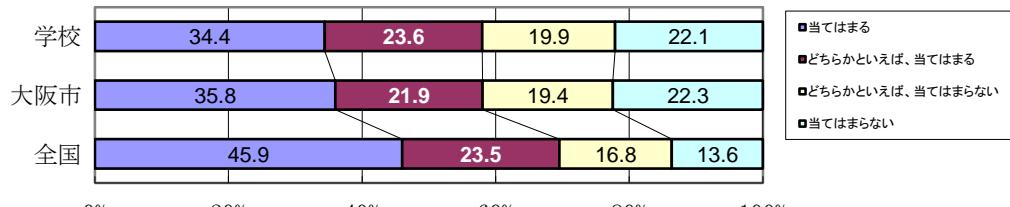
42

1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



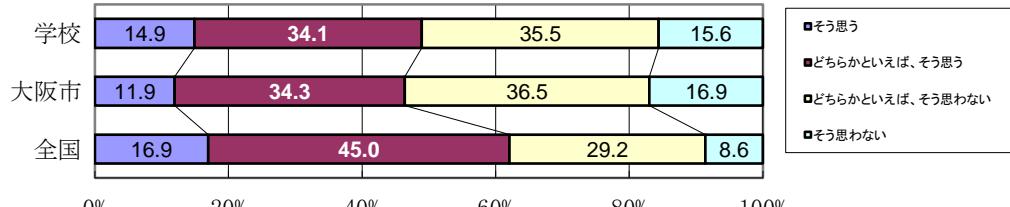
53

読書は好きですか



48

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

○生徒が自ら発言・発表する機会を増やすように指導法の工夫・改善を行っている。

○生徒会活動や委員会活動での話し合いは活発になってきたが、授業や学級活動でまだまだ生徒同士が話し合う機会が少ない。

○読書について、ここ数年の経緯を見ると、読書週間の設定や図書室開館の時間拡張により、少しずつ読書する習慣が身についてきているが、更なる推進が必要である。

今後の取組

○各教科で、自分の意見発表や生徒間の話し合い、調べ学習などの授業改善に積極的に取り組み、言語力の育成に努める。

○ICT機器の活用などにより生徒の興味・関心を引く授業づくりに努め、協働的な学びを進める。

○朝読書や図書室開館日の増加、学級文庫などの取組みを充実させる。

学びの充実に向けて(2)

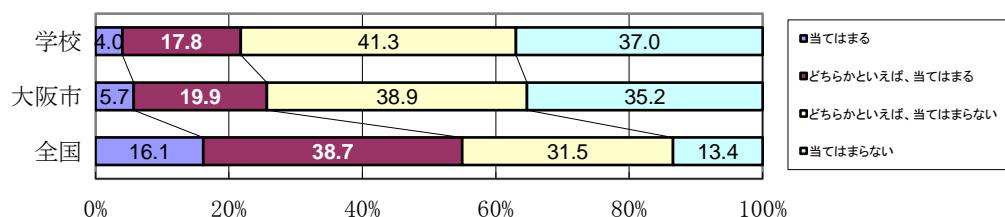
結果の概要

○「総合的な学習の時間」での取組みで、課題を立てて情報を収集して整理し調べたことをまとめ発表するという学習活動についての質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は22%で大阪市平均より3.8ポイント低い。

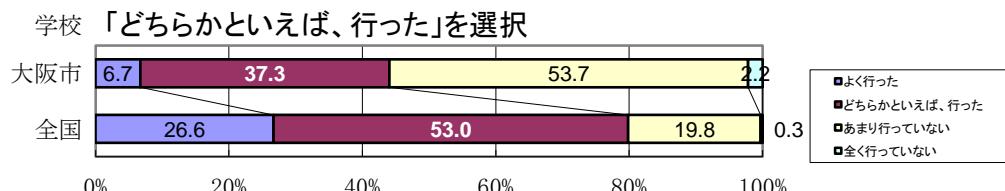
○1・2年の授業での生徒間の話し合い活動についての質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は42%で大阪市平均より8.2ポイント低い。

質問番号	質問事項
------	------

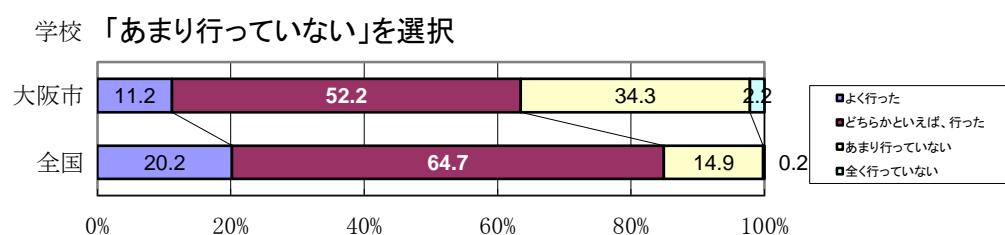
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報をを集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



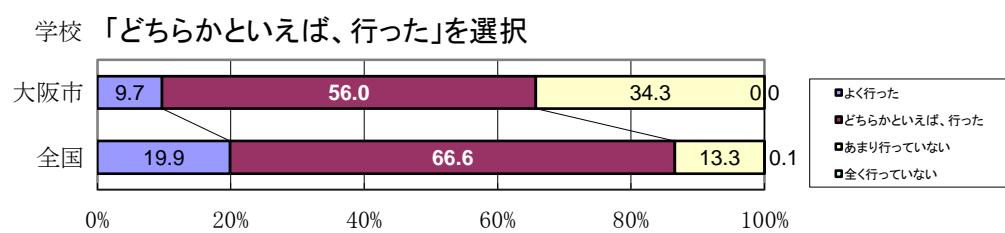
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



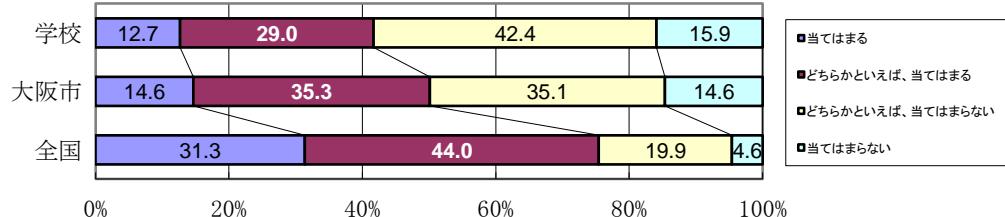
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

○総合的な学習の時間を利用し、人権教育や福祉体験学習、平和学習等に系統的に取り組んでいる。今年度は、人権・平和に関する調べ学習を行い、班の壁新聞を文化祭で展示するという取組み等を行っているが、全般的に教師主導の内容が多い。

○各教科の授業で、自分で考えたり他の人と話し合ったりする等の学習活動が少ない。

今後の取組

○自ら課題を立て、情報を収集して整理し、調べたことをまとめ発表するという取組みを進めていく。
 ○自分の考えを説明する機会や班で活動する機会を増やし、話し合う活動を積極的に行う。
 ○自分で調べたことや考えたことを書くという活動を、工夫して教科指導に取り入れていく。

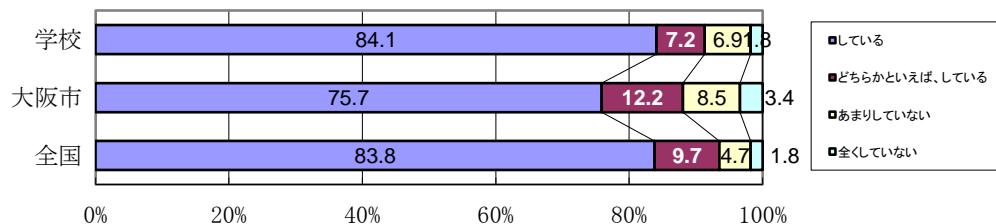
基本的生活習慣

結果の概要

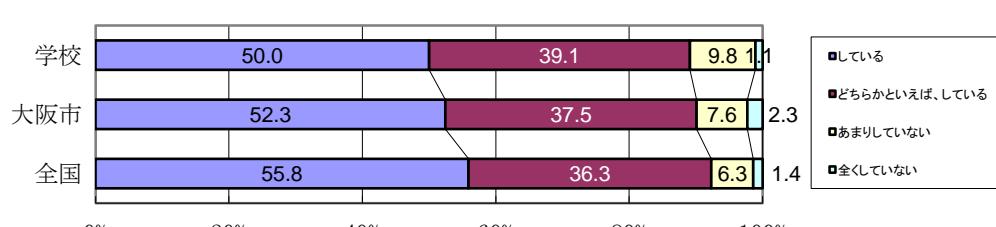
- 「朝食を毎日食べていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は91.3%で、ほぼ全国平均並みであった。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は89.1%で、ほぼ大阪市の平均並みであった。
- 「1日当たりの携帯電話、スマートフォンでの通話、メール、インターネットをする時間」の質問に、4時間以上と回答した生徒が10.1%、3時間以上と回答した生徒が9.8%でほぼ全国平均並みであった。
- 「1日当たりのゲームの時間」の質問に、4時間以上と回答した生徒が5.4%、3時間以上と回答した生徒が4.0%で全国平均より10.9ポイント低かった。

質問番号	質問事項
------	------

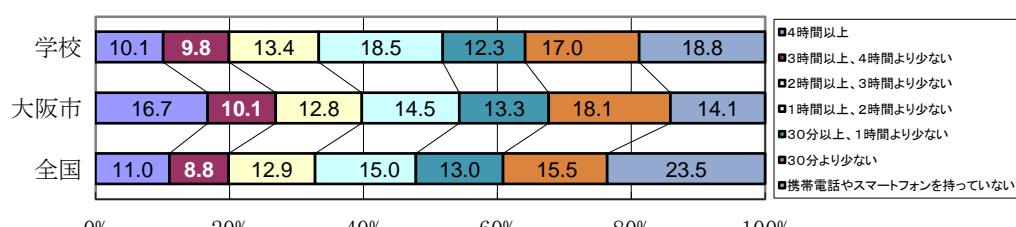
1	朝食を毎日食べていますか
---	--------------



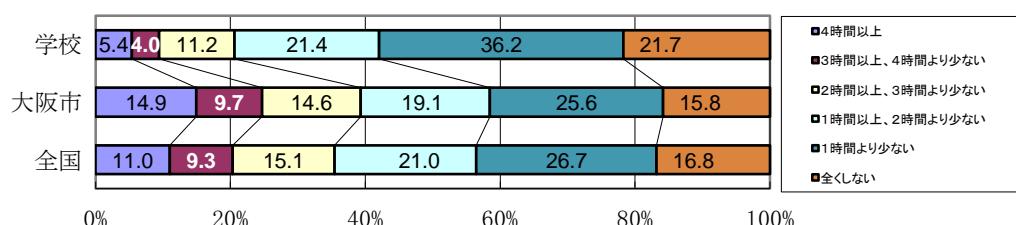
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
---	---------------------



13	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)
----	--



12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか
----	---



成果と課題

- 毎日決まった時間に起き、朝食を食べるという基本的な生活習慣に関しては、ほぼ確立されている。時間に余裕を持って登校できており、遅刻する生徒は非常に少ない。
- 携帯電話やスマートフォンの利用時間は、大阪市の平均を下回っている。携帯電話やスマートフォンの使用に関する講話や機会あるごとに注意を促す指導を引き続き行う必要がある。

今後の取組

- 朝食の摂食や時間を守る、また規則やルールを守るなどの基本的な生活習慣が身についている生徒が多く、継続した取組みを進めていく。
- 携帯電話やスマートフォンの利用について、家庭においてルールを決めて守らせるなど、家庭教育が担う面が多くあり、PTAや家庭と連携した取り組みを進める。また、携帯電話やスマートフォンを所持する年齢が低くなってきており、小学校と連携した取り組みを進める必要がある。

家庭学習

結果の概要

○「家で学校の授業の復習をしていますか」の質問に、肯定的な回答(している・どちらかといえばしている)をした生徒の割合は43.1%で、全国平均を約7.3ポイント下回っている。

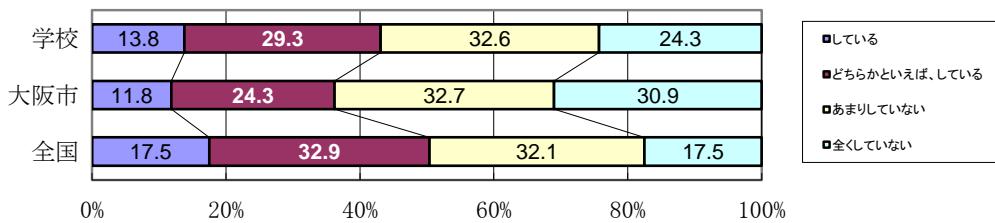
○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、肯定的な回答(している・どちらかといえばしている)をした生徒の割合は44.6%で、ほぼ全国平均並みである。

○「普段、学校の授業時間以外に家で勉強する時間」の質問に、3時間以上と回答した生徒が14.5%、2時間以上と回答した生徒が33.3%で、全国平均より12.7ポイント上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

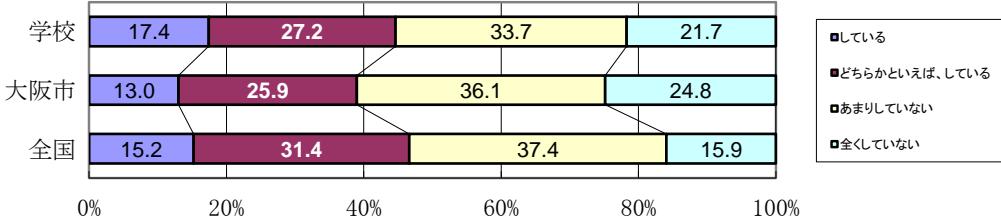
24

家で、学校の授業の復習をしていますか



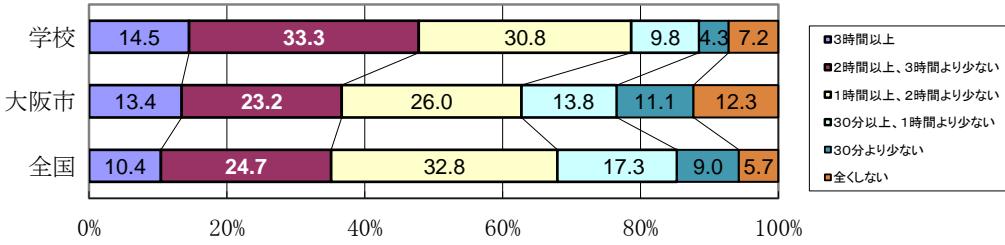
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

○学習塾の時間を含めた家庭学習の時間は長く、学習に対する意識は高い。学校でも、休み時間などでも勉強する生徒が多く、まわりも自然と勉強するなど相乗効果が表れている。

○与えられた宿題については家庭で取り組んでいるが、家庭で自ら課題を見つけ積極的に家庭学習を行う姿勢が身についている生徒は少ない。

今後の取組

○家庭での自主学習が習慣化し、学習習慣を見つけさせるため、学校での指導を進めるとともに、保護者への啓発を進め、元気アップ事業での学習会の活性化を図る。

自尊感情・規範意識

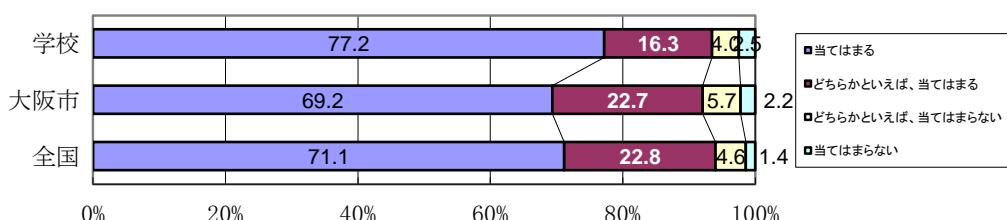
結果の概要

- 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は93.5%で、ほぼ全国平均並みである。
- 「学校の規則を守っていますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は94.6%で、ほぼ全国平均並みである。
- 「先生はあなたのおいところを認めてくれますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は80.1%で、全国平均を6ポイント上回っている。
- 「自分にはよいところがありますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)をした生徒の割合は69.2%で、全国平均を少し上回る。

質問番号	質問事項
------	------

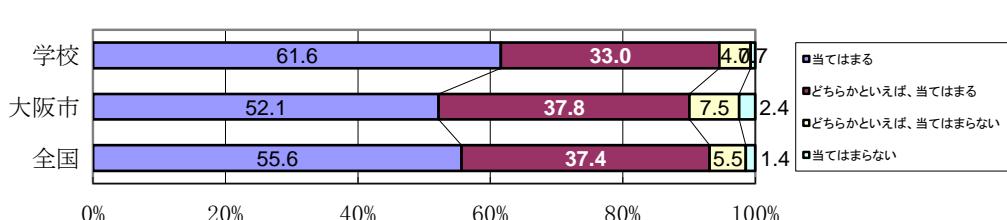
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



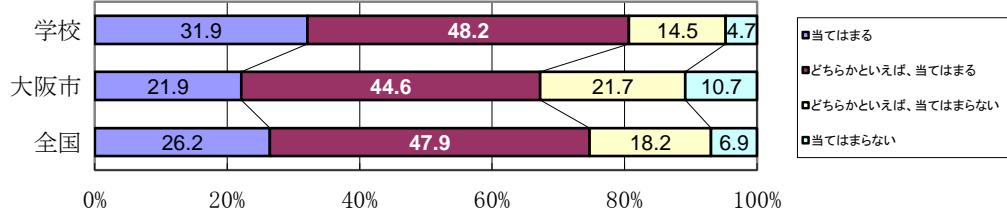
34

学校の規則を守っていますか



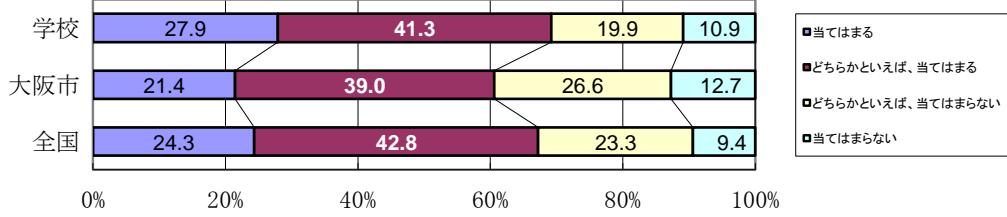
28

先生は、あなたのおいところを認めてくれていると思いますか



6

自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

- 生徒たちが規律ある学校生活を送れるよう取り組んだ成果が表れている。また、教科の授業以外の行事や取組みを活性化し、充実した学校生活を送っている生徒が多い。
- 自尊感情の醸成はここ数年伸びているが、否定的に捉えている生徒も少なくなく、「わかる」「できる」喜びを感じさせる指導を継続して取り組む必要がある。

今後の取組

- 学校の秩序を維持するための取組みを引き続き進めていくとともに、生徒の心に寄り添う指導を継続して行う。
- 道徳教育を系統的に取り組み、生徒に豊かな人間性を身につけさせる。

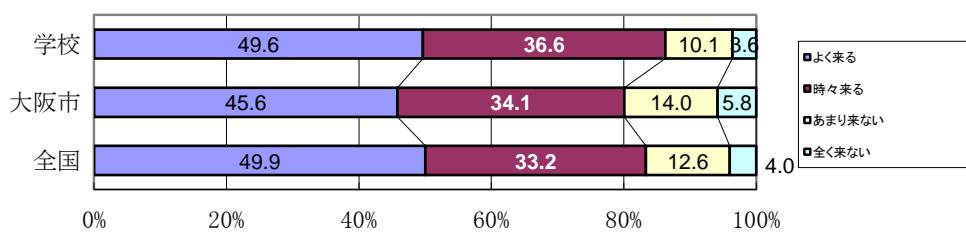
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

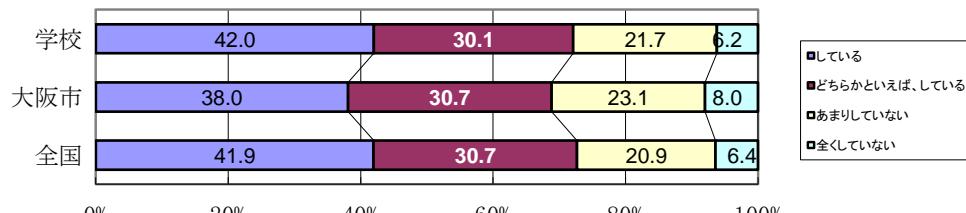
- 「家の人は授業参観や運動会などの学校行事に来ますか」の質問に肯定的な回答(よく来る・時々来る)した生徒の割合は86.2%で、全国平均を3ポイント上回っている。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問に肯定的な回答(している・どちらかといえばしている)した生徒の割合は72.1%で、ほぼ全国平均並みである。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」の質問に肯定的な回答(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)した生徒の割合は48.9%で、大阪市の平均を上回っているが、全国平均を6.7ポイント下回っている。

質問番号	質問事項
------	------

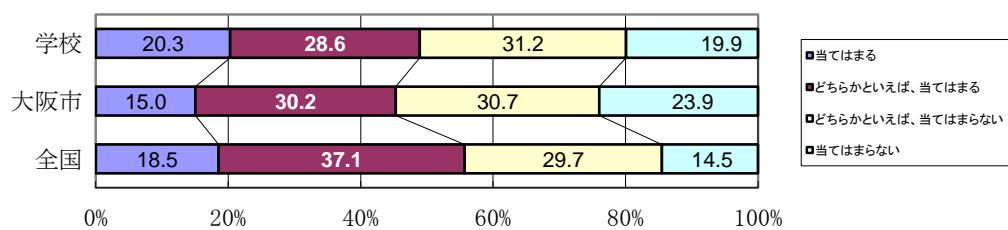
20
家人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか



成果と課題

- 体育大会や合唱コンクール、文化発表会などの学校行事や様々な取組みについて、各種通信やホームページを通して広く情報発信に努めている。その結果、学校教育への関心が高くなり、保護者の学校行事への参加率が高い事や、家で子どもと話をする機会が多いことにつながっていくと考えられる。
- 地域や社会での出来事への関心について、昨年に比べ向上しているが、地域行事への参加が低い現状がある。

今後の取組

- 学校教育に対する理解、協力を求めるうえで、学校での教育活動を広く広報することが大切である。学年便り、校長室便りなどの通信に加え、ホームページの学校日記を充実させる。
- 職場体験学習、福祉体験学習など、生徒が地域の方々と関わる行事を更に推進していく。
- 家庭環境が厳しく、不安定な気持ちで日々学校生活を送っている生徒もいる。それらの生徒を含め、相談活動を充実させる。

学校組織の改善

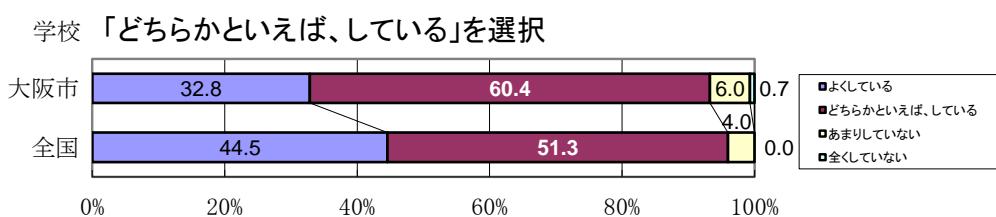
結果の概要

○「運営に関する計画」で長期目標、短期目標を全教職員で共有しているが、市内有数の大規模校で教職員間の共有という点では、組織として少し弱さがある。従って、「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」と「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し取り組んでいるか」という質問の回答は、「どちらかといえば、している」としている。

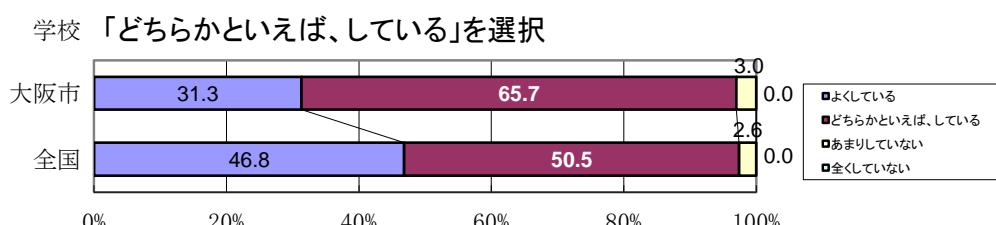
○授業研究についての質問は、前年度の回答であり、今年度は公開授業参観を設け年間一人一回の研究授業を行う。

質問番号	質問事項
------	------

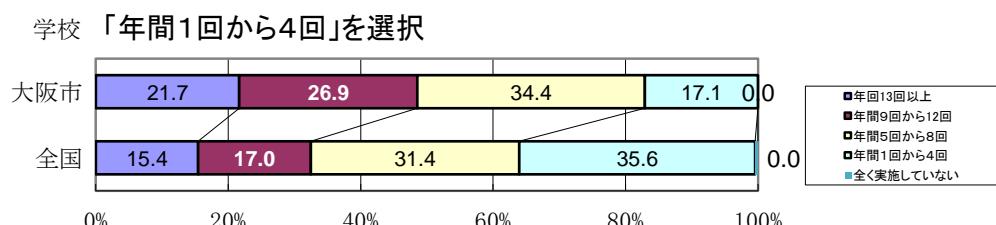
98【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



96【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題

○「運営の計画」では、数値化した目標については、取組み内容がわかりやすくなった。各種調査やアンケート結果により、PDCAサイクルにより、改善への取り組みが明確になった。

○大規模校にありがちなセクト的なうごきにならないよう、風通しの良い教職員組織の構築が課題である。

今後の取組

○学校運営に関する課題を明確に示し、全教職員が解決に向け前向きに取り組む組織づくりを進める。

○週1回の主任会を引き続き行い、情報交換を行うとともに課題を明らかにしていく。

○年間を通して、教員一人一回の研究授業の設定の仕方を工夫し、研究協議も充実させる。